



第3章 まちなか再生に向けた取組み提案

1. 新潟ブランドイメージの構築・戦略展開・・・・・・・・・・ P34
 - (1) 新潟市・都心軸をアピールするためのブランド戦略の構築
 - (2) 湊町の歴史を踏まえ、100年先を見据えたまちづくり
2. 個性的で賑わいのある商業・都心空間・・・・・・・・・・ P36
 - (1) 人々を引きつける工夫と魅力的なサービス
 - (2) 未来の活力を担う新しい文化創造活動の支援
3. 都心軸を結ぶ分かりやすく利用しやすい「まちなか公共交通」の構築・・・・ P40
 - (1) 利便性が高く都心各地区を機能的に結びつける新たな公共交通
 - (2) 都心に行きやすくストレスを感じさせない公共交通利用環境
 - (3) 都心軸と白山駅を接続し、まちなかに循環を生み出す公共交通軸
4. 湊町文化・温故知新・行ってみたいまち新潟・・・・・・・・・・ P45
 - (1) 湊町新潟が誇る花街文化を活かしたまちづくり
 - (2) 新潟の歴史文化を体感する「まちあるき観光」の確立
 - (3) 信濃川・萬代橋を活かした親水空間整備
5. 新潟市の玄関口にふさわしい風格と機能を兼ね備えた街並みの創出・・・・ P49
 - (1) 都心軸における良好な街並み形成と屋外広告物の誘導
 - (2) 都心軸の快適な歩行環境の整備
6. 訪れる人・住む人に安心・安全なまちなか整備とまちなか居住推進・・・・ P51
 - (1) 連携協働による安心・安全なまちづくり
 - (2) 歩行者・自転車にやさしい健康的な都市環境整備
 - (3) 様々なライフスタイルに対応した都心居住の推進

1. 新潟ブランドイメージの構築・戦略展開

(1) 新潟市・都心軸をアピールするためのブランド戦略の構築

- ・ 湊町の文化や水と土の歴史など、新潟独自の歴史と個性を戦略的にPRすることにより、アピール力を高めて交流人口の拡大を図ります。
- ・ PRの手法としては、まずは首都圏などの集客効果が見込めるエリアに絞り、インパクトのあるビジュアルとキャッチコピーで電車の中吊り広告や駅構内広告を出すことも有効です。また、新幹線の車内や飛行機内のディスプレイでPRをすることもターゲットの絞り込みをする上で効果が期待されます。
- ・ さらに、観光に関わる各事業者や行政がコンセプトを共有し、集中的な取組みを進め、食の陣や酒の陣など季節ごとのイベントを一体的にPRすることで、オールシーズンで新潟を楽しめる提案が可能となります。
- ・ また、歴史的なものと新しいものを組み合わせ、新たな魅力や創造性を生み出す温故知新のまちづくりが、これからのブランドづくりに重要です。
- ・ このような取り組みの効果として、行ってみたいまち、住んでみたいまち新潟が実現します。

〔期待される効果〕 都市ブランドの確立、交流人口の拡大
〔主な担い手〕 関係団体、事業者、市役所
<p>〔具体的内容〕</p> <p>短期 : ・ 交流人口拡大のため官民を挙げた推進体制の構築 【関係団体、市役所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟市のイメージを考える啓発映像の作成【市役所】 ・ 水と土の芸術祭に連動したシティプロモーション活動推進 【関係団体、市役所】 <p>中期 : ・ 湊町、柳都文化を活かしたメディア発信【事業者、市役所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏・北東アジアをターゲットにしたイメージ発信 【事業者、市役所】 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="252 1599 810 1975">  </div> <div data-bbox="837 1599 1396 1975">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="252 1982 550 2020">↑ 水と土の芸術祭の作品</div> <div data-bbox="837 1982 1136 2020">↑ 湊町、柳都のイメージ</div> </div>

(2) 湊町の歴史を踏まえ、100年先を見据えたまちづくり

- ・都市のデザインは短期的な流行に左右されるものではないため、今後50年から100年先を見据えたまちづくりの視点の中で議論されるべきです。
- ・都市の人口減少が予測される中、都市に活力を与える交流人口の拡大は大変重要な意味を持ちます。そのためにも、交流都市、湊町として栄えた新潟の350年以上の歴史を踏まえ、長期的なビジョンや都市の将来ビジョンを明確にする取組が重要です。
- ・さらに若者や主婦など、多くの主体がより議論・活動に参加できる市民会議のようなものがあれば、各世代のニーズや新しい発想を踏まえた提案に加え、協働によるまちづくりを幅広く展開することが出来るでしょう。

〔期待される効果〕 都市ブランドの確立、市民啓発、景観形成	
〔主な担い手〕 関係団体、事業者、市民、市役所	
〔具体的内容〕	
短期	<ul style="list-style-type: none"> ・開港150周年に向けた市民委員会の設置【市民、市役所】 ・港湾施設を利用した新たな賑わいづくりの検討に着手【関係団体、市役所】
中期	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ確立に向けた事業展開【関係団体、市役所】
	
↑ 上空から見た現在のまちなかの様子	↑ 湊町新潟の歴史景観：堀と柳、旧税関庁舎

※具体的内容の時期設定

短期が1～2年、中期が3～5年、長期が10年以内

2. 個性的で賑わいのある商業・都心空間

(1) 人々を引きつける工夫と魅力的なサービス

- ・全国各地の成功している商店街の多くは、既存商店街組織では対応できない取り組みなどを進めるため、組織自体を見直し、エリア内で総合的なテナントミックスや魅力づくりを進めています。
- ・新潟市の上古町商店街では、若手の商業者の意見を採用し、デザインにこだわったアーケード改修に合わせて、商店街が一体となってアイデアに富んだイベントや空き店舗へのテナント誘致を行った事例が、成功例として全国的にも注目されています。
- ・まちなかの商業地が生き残るためには、地域力や個性を高め、郊外のショッピングセンターとの差別化を図ることが重要です。細かな顧客ニーズへの対応や、まちなかでしかできない文化施設等との連携、観光とセットになった商品開発、公共交通や自転車利用者への優遇などで、まちなかのリピーターを増やすことが望めます。
- ・例えば、市場の近くで、地元の食材を使った料理教室などを開催したり、町屋を店舗として活かすことも、地域の文化や特徴を継承しながら、来街者を増やす有効な取り組みとなるでしょう。
- ・一方、まちなかの強みとしては、公共交通が充実し、サラリーマンなどが多くいるため、飲食店の需要があげられます。既存の飲食店のほか、まちなかにオープンカフェや博多の屋台のような雰囲気生まれれば、さらに魅力が向上するでしょう。
- ・まちなかでは高度成長期に建てられたビルの更新時期を迎えています。これらの更新と合わせて、広場や交通ターミナル、行政施設や、本市の特色である農産物や米菓、スポーツチームとの交流体験施設など、様々な魅力を創出する試みが望めます。

〔期待される効果〕	魅力向上、賑わい創出、交流人口の拡大
〔主な担い手〕	商店街、事業者、関係団体、市役所
〔具体的内容〕	<p>短期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり会社の設立検討（古町） 【商店街】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 例えば：商店街コンセプトの明確化、テナント誘致・魅力的な商品構成、イベントの発信・定着 ・りゅーとカードの地域活用 【商店街、事業者】 ・宿泊・飲食・体験をセットにした商品開発 【商店街、事業者、関係団体】

- 中期 : ・低未利用地の活用及び再開発の推進(古町、万代地区)
【関係団体、商店街、事業者、市役所】
・新たな機能空間の創出【関係団体、商店街、事業者、市役所】
→ まちなか広場・イベント空間・交通ターミナル 等
・大和デパート跡地での賑わい空間の創出(交流広場など)
【地権者、関係団体、市役所】
: ・タウンマネジメント組織の設立と景観ルールづくり
【関係団体、事業者、市役所】
- 長期 : ・ミニ循環バス運行の検討 【商店街】



↑ 低未利用地の活用事例



↑ 新たな機能空間創出の事例:アーケード内のイベント広場



↑ 地域の食材を活かした料理教室(イメージ)

(2) 未来の活力を担う新しい文化創造活動の支援

- ・これまでの経済発展を支えた市場経済主義や大量消費型社会からの転換点を迎えた今、持続可能な都市には地域独自の活力を生み出す創造性が不可欠です。
- ・地域の伝統文化や風土を見直し、新たなまちの魅力につなげ、さらに新産業や雇用に結び付ける創造力を育むため、次代を担う若い世代への支援が求められています。
- ・若者のクリエイティブな活動を支援するためには、活動の場として多様な空間を提供できるまちの許容力、包容力が必要です。そのためには、道路や公園、河川敷などの公共空間のほか、民間の空きビルや町屋、蔵など、様々な空間を創造的かつ有効に活用する取組みが期待されます。
- ・例えばアーティストインレジデンス（※）の実施により、幅広くクリエイティブな人々にまちなかに住んでもらうことで、協働による新たな文化や産業の創出も期待できます。
- ・また、アニメやCG制作会社などの誘致ができれば、クリエイティブな職業を望む若者の雇用の場を創出することが可能になります。
- ・さらに、大学やサテライトキャンパスの立地は、まちなかに若者の活力をもたらすだけでなく、将来を担う世代が生きた社会経済活動と歴史文化を学び、“新潟”への愛着と誇りを育てる大変貴重な機会を与えるものと考えられます。
- ・伝統文化から新しい文化創造に至るまで、多彩な文化が満ち溢れ、一つの創造が新たな創造の連鎖を生む活力あるまちなかは、行ってみたい、住んでみたい魅力の原動力となるでしょう。

※アーティスト イン レジデンス: 各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら作品制作を行ってもらう事業のこと。

〔期待される効果〕 都市ブランドの向上、新産業による雇用の創出
〔主な担い手〕 事業者、関係団体、市役所

〔具体的内容〕

- 短期 　：・食文化創造都市（米を中心とした料理、製品・加工技術、おもてなし、料亭料理および芸妓文化など）のユネスコ認定
【事業者、市役所】
- ・（仮称）マンガ・アニメ情報館の整備
【市役所】
- ・アーティストやクリエイターの育成・発表機会の創出
【関係団体、事業者、市役所】



↑まちなかでのアーティストの作品発表の事例（ショーウィンドーでの作品展示）

3. 都心軸を結ぶ分かりやすく利用しやすい「まちなか公共交通」の構築

(1) 利便性が高く都心各地区を機能的に結びつける新たな公共交通

- ・ BRT・LRT など環境に優しい交通システムを都心軸に導入することにより、過度な自動車依存からの脱却を図り、都心軸の交通負荷の軽減やトランジットモール化などの新たなまちづくりへの展開が必要です。
- ・ まちなかへのわかりやすい交通システムは、単に都心軸の利便性を高めるだけでなく、デザイン性の高い車両やターミナル、走行空間がもたらす先進的な都市イメージの創出が期待されます。
- ・ 特にターミナルや広場的な空間は、人が集まるまちなかの賑わい拠点として、周辺の価値向上、民間投資促進にもつながります。
- ・ 運営主体については、各事業者が連携し、より利用しやすい方法が望まれますが、欧州での運輸連合（※）のような連携ができれば、乗り換えの料金加算がなくなるなど、市民や観光客にとって利便性の高い交通システムが実現します。
- ・ これらの事業効果を早期に発揮させるためにも、具体的な導入イメージとメリットを示し、市民や来街者、さらには未来を担う子どもたちが誇りに思える「まちなか公共交通」を実現する努力が必要です。

※運輸連合：一定の地域内の公共交通機関（鉄道、バス、路面電車など）と行政など関係機関が連合体を形成し、公共交通の維持運営を一元的に管理する組織のこと

〔期待される効果〕	利便性、景観形成、賑わい、民間投資促進
〔主な担い手〕	事業者、国、県警、市民団体、市役所
〔具体的内容〕	<p>短期 : ・新交通導入に関する市民啓発事業の強化【市民団体、市役所】</p> <p>中期 : ・既存バス路線・バス停の再編【事業者】</p> <p> ・バスICカード「りゅーと」の活用【事業者、市役所】</p> <p> ・BRTの導入（白山駅～古町～万代～新潟駅） 【事業者、国、県警、市役所等】</p> <p> *バス走行空間を同時整備（新潟駅～万代・古町～市役所）</p> <p>長期 : ・新たな交通システムの延伸（新潟駅～鳥屋野潟南部） 【事業者、国、県警、市役所等】</p> <p> ・LRTの導入について判断</p>



↑新潟市における
新たな交通導入イメージ（BRT）



↑バスICカード（りゅーと）



↑BRT（フランス ナント）

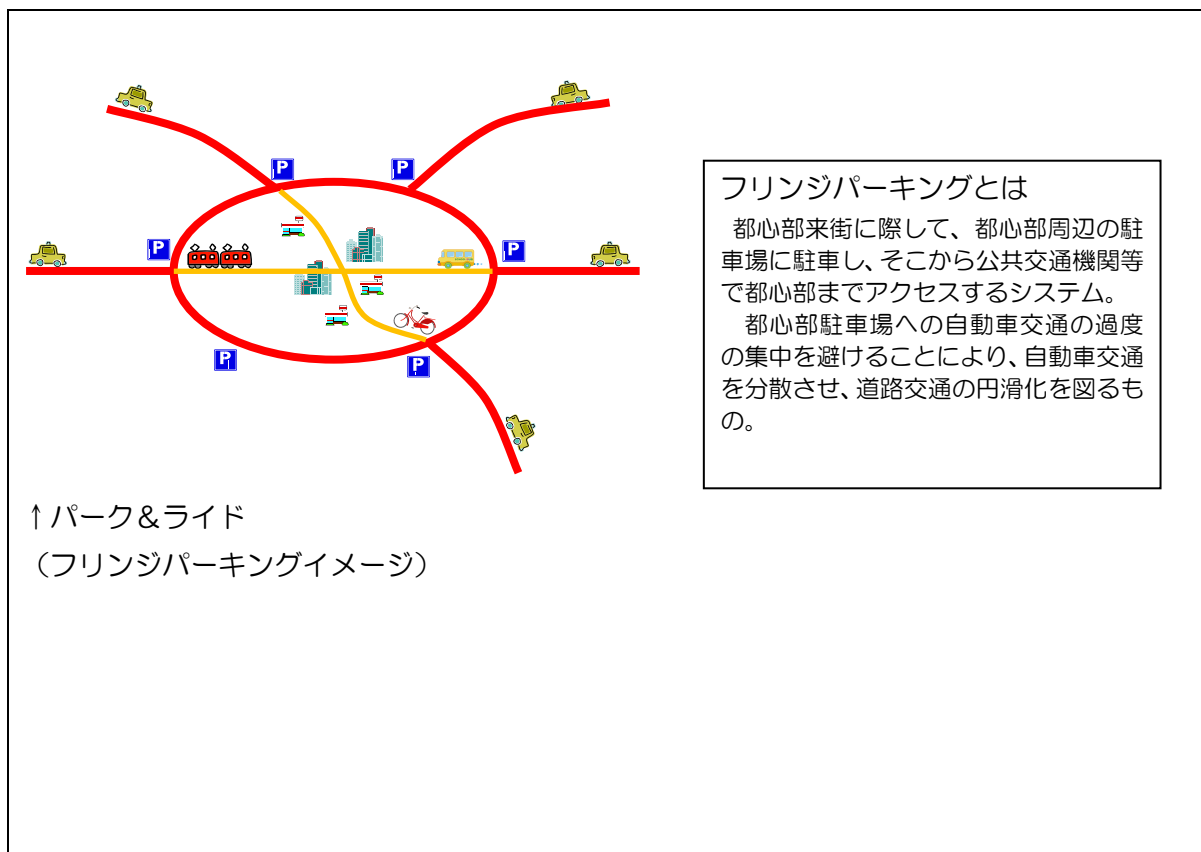


↑LRT（富山市）

(2) 都心に行きやすくストレスを感じさせない公共交通利用環境

- ・「まちなかの公共交通」を考えると、郊外路線との乗換えは非常に重要な課題となります。既存バス間の乗換えやJRと直結した運行ダイヤの検討など、まちなかでの結節機能を強化することで、乗換え利便性の向上が期待されます。
- ・また、交通情報はもちろんのこと、同時に観光やイベントなどのまちの情報を提供し、待ち時間においてもストレスを感じさせないことで、まちなかを快適に移動させる効果があります。
- ・さらに、基軸となる公共交通の沿線に公共施設や誘客施設を計画的に配置することで、需要の喚起を図り、運行頻度の高いサービスの提供が可能となります。

〔期待される効果〕 利便性、情報提供、快適な移動
〔主な担い手〕 商店街、事業者、市役所
<p>〔具体的内容〕</p> <p>短期 : ・ 郊外路線との連携・望ましい交通結節機能の検討 【事業者、市役所】</p> <p>・ 新たな交通システム導入時における 郊外バス路線との結節・連携検討 【事業者、市役所】</p> <p>中期 : ・ 古町地区のバス案内の窓口機能を整備 【事業者、商店街、市役所】</p> <p>→ (交通結節機能強化にあわせ) 路線図や時刻表、 まち歩き拠点、イベントや観光情報を提供する案内窓口の設置 ・ ・ ・ 空き店舗を利用した「まちの駅」など</p> <p>・ パーク&ライド駐車場の拡充整備で結節機能を強化【市役所】 → 高速バス停やJR駅周辺の市有土地・施設を活用</p> <p>・ 結節機能の強化(新潟駅・万代・古町・市役所・白山駅) 【事業者、市役所】</p> <p>・ フリンジパーキングなど総合的な利用促進策の展開【市役所】</p> <p>長期 : ・ 新潟駅高架化に併せたワンストップ・インフォメーション機能 (公共交通、観光、イベント、グルメ等)の整備・拡充 【事業者、市役所】</p> <p>・ 新潟駅駅舎高架化後の高架下交通広場の整備による 公共交通間のスムーズな乗り換えの実現 【事業者、市役所】</p>



(3) 都心軸と白山駅を接続し、まちなかに循環を生み出す公共交通軸

- ・白山駅を交通結節点として整備することにより、都心軸と鉄道を環状に結び公共交通軸が形成され、人と経済が循環するまちとなることが期待されます。
- ・また、荒天時における越後線の代替交通手段として、市民が安心して移動できる信頼性の高いまちなか移動手段の役割を担います。
- ・新たな交通システムの導入や駅前広場の整備により、都心軸のみならず白山駅周辺のまちづくりに大きな効果が期待できます。

<p>〔期待される効果〕 利便性</p>
<p>〔主な担い手〕 事業者、市役所</p>
<p>〔具体的内容〕</p> <p>短期 : ・白山駅とバス路線（既存及び新規）の連絡強化【事業者、市役所】</p> <p>中期 : ・白山駅前広場整備【事業者、市役所】 ・BRTの導入（再掲）</p> <p>長期 : ・白山駅前広場の結節機能の強化【事業者、市役所】 ・LRTの導入について判断（再掲）</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="252 913 826 1317">  </div> <div data-bbox="858 913 1433 1317">  </div> </div> <p>↑ 白山駅前広場全体イメージ</p> <p>↑ 白山駅前広場バスバースイメージ (鉄道⇔バス乗り換え)</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="252 1440 826 1753">  </div> <div data-bbox="858 1440 1433 1854">  </div> </div> <p>↑ 新潟駅高架下交通広場イメージ</p> <p>↑ ポートラムとフィーダーバスの乗り換え（富山市）</p>

4. 湊町文化・温故知新・行ってみたいまち新潟

(1) 湊町新潟が誇る花街文化を活かしたまちづくり

- ・古町は日本三大花街の一つに数えられた華やかで奥深い歴史がありますが、近年の中心市街地の衰退とともに、割烹、料亭などが減少し、古き文化を伝える芸妓の数も減っています。
- ・このような新潟独自の文化や花街の街並みを後世に残し伝えていくためには、伝統芸能の修得・継承に関する支援や、小中学校の総合学習等の場において湊町“新潟”の歴史を学ぶ機会を増やすなど、市民、民間、大学、行政が一丸となった取組みが求められます。
- ・景観の面では、特に歴史的建造物の維持・保存制度を急ぐ必要があります。さらに、新しい建物についても、材質や色彩を工夫することで、通り全体としての花街の雰囲気を作り出す取組みが求められます。
- ・花街の魅力を全国にアピールし、交流人口の拡大に結び付ける取組みとしては、例えば、柳都文化ミュージアム的な拠点施設や、西堀・新堀への堀の復元、歩行空間の石畳化といった“湊町新潟”の趣を醸し出す環境整備等も必要です。
- ・さらに、和装で情緒あふれる街並みを散策したり、柳都文化の紹介施設で芸妓の舞を体験できるなど、誰もが花街の風情を味わうことのできるソフトの充実を図ることも効果的でしょう。
- ・また、古町から旧小澤家住宅や、旧斎藤家別邸を結ぶ動線に、歩きたくなる工夫や情緒のある景観を整備することで、より効果的に湊町の歴史文化を発信し味わう仕掛けが期待されます。

〔期待される効果〕	景観の向上、ブランドの確立、新産業の創出、民間投資拡大、交流人口拡大、賑わいの創出
〔主な担い手〕	事業者、関係団体、商店街、市役所
〔具体的内容〕	<p>短期 : ・街並み空間整備に関する検討組織の設置【関係団体、市役所】 ・花街の保全（景観条例による地区指定やまちづくり協定など） 【関係団体、市役所】 ・一番堀、西堀、新堀の復元検討 【市役所】</p> <p>中期 : ・芸妓が歩き、三味線が聞こえるまち・芸妓体験 【商店街、事業者、市役所】</p>

・新道および歴史施設周辺の情緒ある道づくり 【市役所】

長期 : ・堀と柳の風情あふれる新堀通りの空間整備 【商店街、市役所】
 ・柳都伝統文化を伝える文化伝承拠点整備 【事業者、市役所】



↑金沢市の茶屋街の様子：整備され観光名所となっている。
 →古町9番町の小路の様子：風情のある建物はあるが、活用されていない。



(2) 新潟の歴史文化を体験する「まちあるき観光」の確立

- ・今後のまちづくりにおいては、急激な人口の増加が見込めないことから、観光・交流人口の拡大が重要課題です。
- ・また、観光のあり方自体も団体観光から、少人数で街（まち）を歩き、そのまち独自の魅力を味わう体験型観光に変化しつつあります。
- ・このような時代に対応した交流人口の拡大施策として、誰もが分かりやすいまち歩き情報の提供や、歩いて楽しく、情緒の感じられる路面整備、さらには和菓子作り等、体験型の観光スポットや、文化施設と商業との連携による誘客が望まれます。
- ・このように、多様な関係者の連携による多彩なメニュー作りを進めることで、多様化しているニーズに対応したまち歩き観光が確立できます。

〔期待される効果〕 交流人口の拡大、賑わいの創出、新潟ブランドの確立、新産業・雇用の創出、全県的な観光へのつながり

〔主な担い手〕 事業者、関係団体、市役所

- ・萬代橋を全国にPRする方法も重要です。架橋の背景や隅田川に架かる橋と設計者の物語や、「地震でも落ちず」「融雪装置で滑らず」「船がくぐる」というキーワードを受験に絡めて発信するといった商品開発も面白いかもしれません。
- ・さらに、快適な自転車走行空間の整備、ジョギングや散策を楽しむ市民が利用できる休憩ステーションなど、やすらぎ堤を活用した賑わい創出も効果が期待されます。
- ・また、萬代橋の上流への歩行者専用橋は、古町と万代を歩行者軸で結び萬代橋を眺める観光スポットとして効果が期待されますが、一方、萬代橋の景観を妨げる可能性もあり慎重な議論が必要となります。

〔期待される効果〕賑わい創出、ブランドの確立、都心軸の連続性強化	
〔主な担い手〕 関係団体、事業者、商店街、県、市役所	
〔具体的内容〕	
短期	<ul style="list-style-type: none"> ・萬代橋周辺地区を対象とした都市デザイン競技の実施 【関係団体、市役所】 ・港湾緑地の整備、やすらぎ堤の多目的活用に向け、インフラ等の環境整備 【県、市役所、関係団体、事業者】 ・萬代橋周辺地区における建築行為・景観ルール作り 【関係団体、事業者、市役所】 ・タウンマネジメント組織の立ち上げ（萬代橋周辺） 【関係団体、商店街、市役所】
中期	<ul style="list-style-type: none"> ・万代島の朱鷺メッセや水産物倉庫に向かう歩行空間整備 【県、市役所】
長期	<ul style="list-style-type: none"> ・やすらぎ堤とつながる歩行者動線（道路空間）整備 【事業者、市役所】 → 弁天町～ガルベストーン通り～やすらぎ堤 → 新津屋小路～人情横丁～他門川公園～やすらぎ堤 → 上記区間中における歩行者・イベント空間整備
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>↑ 信濃川に面した街並み</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑ やすらぎ堤でのカフェの様子</p> </div> </div>	

5. 新潟市の玄関口にふさわしい風格と機能を兼ね備えた街並みの創出

(1) 都心軸における良好な街並み形成と屋外広告物の誘導

- ・都心軸をどのような景観デザインにするかが、観光、ビジネスなどでの来訪者の印象を左右する非常に重要なポイントです。
- ・行政、商店街及び地権者などが協力して沿線の景観や屋外広告物のルール化を実現し、良好な街並みを形成することで都心軸のイメージを向上させ、交流人口の拡大に寄与することが期待されます。
- ・例えば、新潟駅～万代地区は空の広がりを活かし、玄関口にふさわしい風格のある空間に、古町は歴史・文化に繋がる期待感などのイメージなどが考えられます。具体的には東大通の沿線ビルの意匠を重厚なものに統一することで、新潟の玄関口としての風格を増すことができます。
- ・また、新潟駅の万代広場周辺に湊町の歴史文化を象徴するモニュメントなどのシンボルを作るのも良いでしょう。

〔期待される効果〕 景観形成、賑わい、イメージづくり

〔主な担い手〕 商店街、事業者、関係団体、地権者、市役所

〔具体的内容〕

- 短期 : ・都心軸沿線各地区の景観・広告物のルール化検討に着手
 【関係団体、商店街、事業者、市役所】
- ・東大通りの景観と空間構成の検討 【国、市役所、県警】
 - ・まちづくりの理念・方向性に沿った、榎谷小路のアーケードを含めた歩行空間整備 【商店街、国、市役所】
- 長期 : ・万代広場と東大通りの連続性のある空間整備 【市役所】
- ・新たなルールに基づいた建築物・広告物の更新
 【事業者、地権者】



↑「馬車道通り」(横浜市)

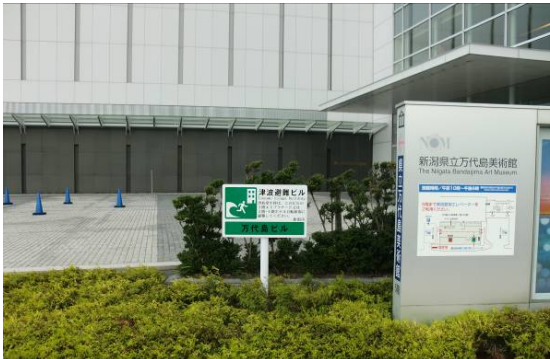


↑「東茶屋街」(金沢市)

6. 訪れる人・住む人に安心・安全なまちなか整備とまちなか居住推進

(1) 連携協働による安心・安全なまちづくり

- ・新潟に訪れる人、住む人にとっての安心・安全なまちなかを実現するためには、行政のみならず地域住民、事業者などとの連携協働は欠かせません。
- ・都心軸各地区の公共空間のバリアフリー化を促進することにより、移動しやすい交通環境を確保し、高齢者、障がい者も外に出やすい環境づくりを進めることが重要です。
- ・多くの人々が集まるまちなかの防災面では、官民が互いの得意分野を活かし、防災協定の締結や防災意識の啓発など、災害に強いまちづくりを進めることが重要です。
- ・将来的には、まちなかのエネルギーを再生可能エネルギーでまかなえるような取組みを進めることで、災害に強いまちの実現が期待されます。
- ・安心できるまちなかに向け、商店街で民間交番のような防犯活動を行うことも重要でしょう。

〔期待される効果〕 安心・安全、防災、協働
〔主な担い手〕 事業者、関係団体、商店街、市役所
<p>〔具体的内容〕</p> <p>短中期：・西堀地下通路のバリアフリー化（エレベーターなど）【市役所】 中期：・防災協定の締結促進 【関係団体、事業者、市役所】 長期：・各地区内における防災拠点機能の強化 【事業者、関係団体、市役所】</p>  <p>↑ 「津波避難ビル」（新潟市） ・万代島ビル</p>

(2) 歩行者・自転車にやさしい健康的な都市環境整備

- ・CO2の削減問題がクローズアップされる中、私たちの生活においても過度なマイカー依存を見直し、環境にやさしい徒歩や自転車を利用する暮らし方が注目されています。
- ・また新潟市では、超高齢化社会を迎え、健幸をまちづくりの中核に位置付け、住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル「Smart Wellness City」構想を推進しています。
- ・この考え方のもと、都心軸のあばら骨にあたる通りには、歩行者・自転車に優しい道路デザインを第一に、都市サインやレンタサイクルの充実など、誰もが安心して快適に移動できるまちなかを実現する必要があります。
- ・さらに、自転車については、事故防止を図る啓発事業や走行空間の整備のほか、路上駐車を減らす取組みとして、地下駐輪施設や既存の低未利用施設を活用する方策も有効です。
- ・また、けやき通りや秣川岸通りのような街路樹が美しい通りは、オープンカフェなど老若男女が集う都会的で開かれた利活用も望まれます。

〔期待される効果〕 安心・安全、商業活性
〔主な担い手〕 商店街、事業者、関係団体、県、市役所
<p>〔具体的内容〕</p> <p>短期 : ・自転車駐輪問題への組織的対応(地域ぐるみ) 【関係団体、商店街、事業者、市役所】</p> <p>・都市サインの再整備・改修 【県、市役所】</p> <p>・ジョギングやサイクリングのためのサービスステーション(休憩、シャワー、荷物預かりなど)整備 【関係団体】</p> <p>中期 : ・レンタサイクル(オシャレ、スタイリッシュ) 【関係団体、事業者、市役所】</p> <p>・レンタサイクルのシステム高度化 【事業者】</p> <p>長期 : ・商店街通りのモール化、歩車共存道路の整備 【商店街、市役所】</p>



↑トランジットモール（ストラスブール）
・自動車の通行を制限し、歩行者、自転車
及び公共交通専用の空間の事例



↑歩車共存道路（さいたま市）
・植栽を利用した、歩車共存道路の事例

(3) 様々なライフスタイルに対応した都心居住の推進

- ・まちなかの衰退の大きな要因の一つに居住者の減少が挙げられます。逆にまちなかの居住者が増加することで地域に活力が生まれ、新たな産業や文化の創出もつながります。
- ・東日本大震災以降、エネルギーの重要性が再認識される中、都心居住は長距離移動にかかるエネルギーを減らす環境に優しい暮らし方として期待されています。
- ・また、まちなかには長い歴史に育まれた文化や街並みといった独自の魅力、さらには交通の利便性や文化芸術施設といった都市サービスを楽しむメリットがあります。
- ・最近では、まちなかの空き家や古い町屋などをリフォームし、個性的で便利な暮らしを実現する事例も増えています。このような様々なライフスタイルに対応した都心居住を推進することで、空家の放置を防ぎ、若い世代を地域に呼び寄せることが可能となり、コミュニティの再生や、地域の伝統文化を未来に繋げることもつながります。

〔期待される効果〕 賑わい創出、コミュニティの活性化、地域文化の伝承、省エネルギー型社会の実現

〔主な担い手〕 関係団体、市役所

〔具体的内容〕

短期： ・ まちなかの空き家状況調査 【市役所】

中期： ・ まちなか居住に向けた助成制度 【事業者、市役所】

・ 町屋バンクの創設 【関係団体、市役所】



↑ まちなか居住の事例（集合住宅）



↑ 町屋の改修事例（村上）